

## 芳賀の水物語

-3-

### 芳賀の地形と水利用



#### 7. 用水の開発

水不足の地域に用水路を作り、日照りに悩むことなく農業に励める土地にしようと、建設が行われてきました。

#### (1) 赤城大沼用水

赤城大沼から水を引くという構想は江戸時代末期からあり、原之郷(旧富士見村)の名主、船津伝次平に遡ります。その構想は大正時代に具現化し、大正四年用水建設の申請が行われましたが、当時は県知事による許可が得られませんでした。



(こまかざわ)川・竜の口(たつのくち)川・赤城白川・藤沢川に分かれ、約360ヘクタールの土地で灌漑に供されています。

この事業はその後継承され、昭和十六年に着工されました。しかし、太平洋戦争のため建設資材の調達に滞り、また隧道の工事も軟弱な地盤や湧水などにより技術的に困難でした。トンネルが完成したのは昭和三十一年、用水路の竣工・通水は昭和三十二年となりました。白川に導かれた水はその後、白川に建設された取水口から用水路を通って南西麓へ導かれ、途中に設けられた2つの円筒分水工で4水系【細ヶ沢

#### (2) 大正用水

大正用水は、大正七年に県営事業として計画されましたが、いろいろな事情により延期になりました。その後、昭和十七年第二次世界大戦中の食糧増産の叫びにこたえ、翌昭和十八年より着工され、昭和二十六年完成しました。

大正用水は、渋川市箱田町内で利根川の分流広瀬川より引水し、赤城山麓を東方に流れ伊勢崎市香林町を終点とし、全長25kmの幹線水路により導水されています。用水の通過している市町村は、渋川市、前橋市、桐生市、



伊勢崎市であり、芳賀地区では、小神明町、勝沢町、鳥取町、五代町の標高140mほどの所を流れています。

#### (3) 群馬用水

昭和三十年に、県と国が力を合わせて利根川総合開発事業の一環として用水路を作りました。

昭和三十九年から工事が始まり、昭和四十五年に幹線水路が完成し、支線水路の工事も県営かんがい排水事業として並行して進められ昭和五十二年に完成しました。

群馬用水は、県中央部にある赤城・榛名・子持山の山麓耕地約1万ヘクタールに田畑輪換、畑地かんがい、既成水田の用水補給を行い、日本でも大

きな用水として知られています。

群馬用水の水源地は、矢木沢ダムからの放水と利根川の自然流水とを合わせて、沼田市岩本の綾戸取水ダム右岸から取水しています。

芳賀地区のほぼ中央を西から東へ流れる群馬用水は、富士見地区から嶺町にはトンネルで流れ、小坂子町で再びトンネルを出た水は、谷の低いところでは水路橋を、そして大胡地区へは地上を流れていきます。流れているのは、標高260m程ですが、金丸町北部の標高約500mにある調整池までポンプアップされ、高いところでも利用されています。

芳賀地区生涯学習奨励員  
連絡協議会

〈つづく〉

### 6月の主な行事予定

6月16日(火)芳賀公園除草剤散布

